

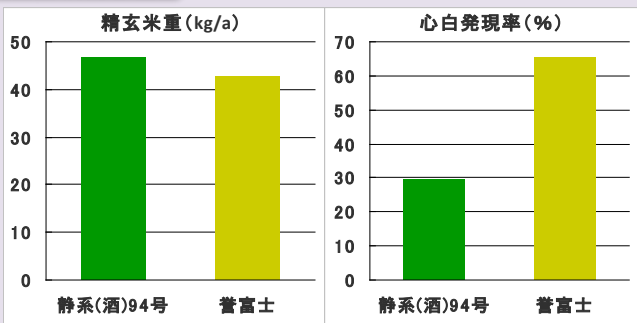
【全体概要】

静岡県農林技術研究所が平成17年に育成した酒造好適米「誉富士」は、県内酒造会社から醸造適性を高く評価され、需要が増加しているが、収量性や耐穂発芽性が劣るため生産が不安定となっている。そこで、収量性、耐穂発芽性の改善に取り組み、新たに育成した「静系(酒)94号」の実用性を検討し、栽培技術を確立することにより、生産者、酒造会社双方にメリットのある安定した生産利用体制の確立を図る。

新品種・新技術等の概要

【静系(酒)94号】

成熟期は「誉富士」と同程度の晩生。「誉富士」と比較して、稈長はやや短く、穂数が多い。収量性、耐穂発芽性に優れる。玄米はやや小さく、心白の発生はやや少ない。



	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	千粒重	穂発芽性
	月・日	月・日	cm	cm	本/m ²	g	
静系(酒)94号	8.24	10.1	70	19.1	470	26.5	中
誉富士	8.22	9.29	78	19.7	365	28.6	極易

※静岡県農林技術研究所におけるH25,26の平均値。

主な取組内容

【現地適応性の評価】

現地5箇所において計200aの試験栽培ほを設置し、生育、収量、玄米品質等を調査。

農業革新支援専門員、普及指導員、JA指導員で調査結果を検討。

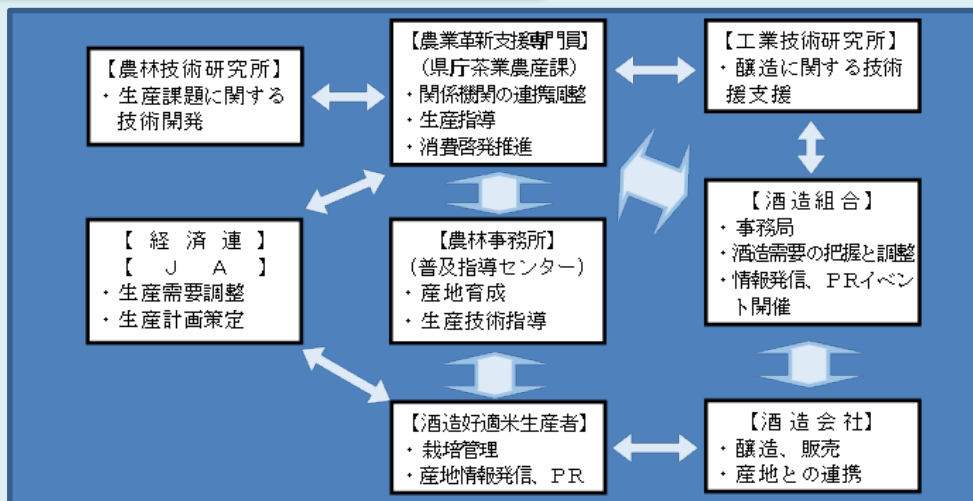
【米の外観品質、醸造特性分析】

酒造好適米としての心白発現率、心白率等の外観品質や、吸水性、消化性等の醸造特性の分析を実施。

【醸造適性の評価】

酒造会社8社で試験醸造を実施。

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

「誉富士」の後継品種として期待された「静系(酒)94号」であるが、醸造特性は「誉富士」と異なり、直ちに「誉富士」から切り替えるのは困難であるとの検討結果を得た。

静岡県誉富士普及推進協議会に新品種研究部会を設置し、「静系(酒)94号」および後継候補系統について、引き続き検討していくとともに、新しい需要拡大に向けた検討を行っていく。